

自殺志願や安楽死が安易に考えられる傾向があるようですが、自殺は、神が授けられたいのちを軽んじる大きな罪で、この世での人間の問題や悩みからの解放、解決どころか、取り返しのつかない地獄に自らを追いやることになるのです。

物理学は自然界にあい矛盾する二つの法則を発見しました。

1. 「熱力学第一の法則」 (物とエネルギーの保存の法則) : 熱量も含めたエネルギーは保存されてい

て、物もエネルギーもともに、もはや創造されることも破壊されることもない

2. 「熱力学第二の法則」 (エントロピー増大の法則) : エネルギー総量は保存されているにもか

かわらず、劣化したエネルギーに変換されることによってエネルギーは廃熱となり、究極的には消滅

の一途を辿っている

最初の法則は、創造の業が終わって自然界が保存されていることを科学的に立証する自然界の法則で、二つ目の法則は、自然界は必ずエントロピー (エネルギーの「質」を測る量) が増える、すなわち、エネルギーの質が劣化する方向に移っていることを示す法則です。言い換えれば、これら二つの法則は、完成された創造が退化に向かっていることを物語っているかのようです。

十七世紀まで千年以上にわたって人々は、外からエネルギーを加えることなく永久に運動し続ける、理想

的な「永久機関」を作成しようと試みたのですが、力やエネルギーを加えなければ、ついには摩擦や空気抵抗で運動は止まってしまい、経験上不可能と分かったのです。そこで、最初のエネルギー保存則を満たす、実現可能に見えたもう一つの別のタイプの「第二種永久機関」を作成しようとしたのですが、これも成功しませんでした。不成功に終わった試みを通して、科学者は十九世紀半ばまでに自然界のこれら二つの法則を発見し、運動を維持し続けるためには、劣化したエネルギー分を、外から質の高いエネルギーによって補い続けなければならないと、理由づけすることができたのです。しかし、なぜ、相反する法則が自然界に共存するのかについては、科学は未だ沈黙し続けているのです。

聖書は、この完成された天地がなぜ退化の過程を辿ることになったかに明確な答えを与えています。それは、神が創造を終えて安息に入られた「七日目」に人類に入った「罪」のゆえです。神の良しとされた天地創造の後、大地の支配者として造られた人間が神のご命令にそむき (反逆し)、人間の体に「罪」が入ったことによって、退化の一途を辿る人間史が始まったのです。すなわち、すべてが完璧な調和で出来上がった天地に、罪の結末である死が入り、死 (消滅) へ向かっての退化の過程が始まったのです。この神の御旨に反する「罪」が、自然界にエントロピー増大の法則をもたらすことになったのです。

冒頭に引用したように、創世記では「万象が完成された」と、過去一回きりの動作を現わす動詞を用い、ヘブル人への手紙の著者は「みわざは創世の初めから、もう終わっているのです。 . . .

神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた」(4: 3-4、付点付加) と語って、永遠に生きる人間が全地を支配し、すべての労働が無駄なく還元される理想的な、いわば、「熱力学第一の法則」を地で行く世界が始まったことを記していますが、創世記3章で事件が起きました。サタンの誘惑に陥った最初の人類が神のご命令に背いたのです。このようにして人間に罪が入り、死が導入された (滅びへの過程が始まった) ことにより、天地が呪われ、「熱力学第二の法則」に則った破壊、消滅への過程が始まったのです。完成期から徐々に退化していく時代が最初の人類の墮落以降、始まった人間史なのですが、詩篇は、天地がついには「すり切れ. . . 取り替えられ. . . 変わってしま (う) 」(102: 25-26) 過程を経て滅びることを語っており、イザヤは、天地の滅びを「天は煙のように散りうせ」(イザヤ書 51: 6) と語り、「熱力学第二の法則」を裏づけているのです。科学者たちは、熱機関としての地球でエネルギー総量は保存されているが、エネルギーの劣化と散逸が起こっており、確かに、最後には廃熱のゆえに、天体すべてが蒸発し、熱いガスが充満し、すべての構造が消滅し、宇宙が熱死すると語っています。弟子ペテロが、二千年近くも前に語った教え「今の天と地は、同じみことば (神は「御言葉」で創造を始められた) によって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。 . . . 主は、ある人たちがおそいと思つているように、その約束のことを遅らせておられるものではありません。 . . . すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます」(ペテロ第二 3: 7-10) も、現存の天地が、「火」によって消滅することを正確に預言しているのです。

エレミヤも、六世紀 BCE のユダ王国の滅びの預言の中に、はるか遠未来に起こることをも洞察して、天地が罪のゆえについては創造に逆行する過程を経て滅びることを預言した一人でした。しかし、冒頭に引用した4章のメッセージに続いて、エレミヤが「まことに主はこう仰せられる。『全地は荒れ果てる。しかし、わたしはことごとくは滅ぼさない。 . . . 』」と主の本心をつけ加え、希望を語ったように、神の御旨は「残りの者」を残し、究極的には罪があるままで人類を救う (永遠のいのちを与える) という遠大なご計画を完成されることであつたので、二千年前に人類を罪から解放する救い主、イエス・キリストを送ってくださったのでした。信じる者は、キリストの甦りのいのちに与り、再び「第一法則」を満たす理想的な世、「神の国」に住むことが可能になったのです。これがキリストの福音なのです。

HAPPY NEW YEAR!